

Good Job!! Nagasaki



今月のグッジョブ
[農業大学校]

地域農業の担い手を育てる



養成部野菜学科 みうらひやうたろう 三浦立太郎さん
野菜学科1年の講師として、普通高校出身者や非農家の学生にも理解できるように、農業の基本から教えています。また、社会人としてのコミュニケーション能力も身に付く教育を心がけています



研修部 かわくちきょうこ 川口京子さん
「労働科学」の講義を通して、農業の労働環境や農作業の安全等について指導しています。研修部では今年度から開催している「ながさき農業オープンアカデミー」に力を入れています



農業大学校校舎前にて。手に持っているのは、学生が栽培管理を行っている野菜や果物、花きなど。前列左から4人目が松本校長

地域農業を支える
人材を育てる姿に
Good Job!!



果樹学科では、ミカン(写真)をはじめドウやナシなどを栽培し、高品質な果実を安定的に生産する技術と経営についての学習を行っている



直売所で販売する野菜の選別風景。学生が栽培管理を行っている旬の農産物を、毎週水・金曜日の13:30から14:00までの間、農大直売所で販売

専門技術を習得できる 実践重視の教育

諫早市にある農業大学校は農林水産省の認定を受けた県内唯一の農業者研修教育施設です。農業の担い手を育成する2年課程の養成部と農業者や就農希望者を対象にした研修部があります。

養成部には野菜学科、花き学科、果樹学科、畜産学科があり、定員70名の全寮制。同じ目的を持つ学生が集い学んでいます。研修部では農耕用の大型特殊とけん引の免許取得のための農業機械安全研修や意欲ある農業者を対象とした、経営管理を学習できる研修「ながさき農業オープンアカデミー」も行っていきます。

大正3年に農事練習所として開校して以来、約3700名の卒業生を送り出し、その多くが県内で農業経営者や農業関連産業の従事者として地域農業の振興に貢献しています。

「農業大学校の最大の特徴は実践教育。どの学科でも就農に必要な技術を習得するために実習6割、講義4割で授業を進めています。また、1年次は8日間、2年次は30日間、先進的な経営を行っている農家に泊まり込み、技術や経営を学びます。さらに、寮生活を通して友情を深め、卒業後もアドバイスをし合うなど強いつながりができるのも特徴です」と松本信助校長。

現在、平成30年度の養成部学生を募集。近年は、農業系高校だけでなく普通高校の卒業生や非農家出身者の入学も増えています。

農業大学校では、今後も長崎県の農業の発展のため、きめ細かな指導を行い人材育成に取り組めます。

農業の担い手を育成することは、農業を活性化
するだけでなく、地域に活力を与えます。

専門技術を習得し地域で就農する若者を増やす
ため、県内5つの農業系高校と農業
大学校をはじめ、生産者、農業
団体などと連携し、担い手の育成
に全力で取り組んでいきます。



長崎県知事 中村法道